

安田女子大学英語英米文学科在学生の声「タイで経験した日本語教育」

2011年1月20日
22:43

英語英米文学科での学びを通して、自分の将来の夢を見つけ、その夢の実現へと努力する4年生の声をお届けします。夢をかなえようと一歩を踏み出してみたら、その夢がもっと膨らんで、頑張る気持ちを後押ししてくれる、そんな素晴らしい経験を語ってくれています。

タイで経験した日本語教育

英語英米文学科4年 植本 彩香



私は、安田女子大学文学部英語英米文学科に入って、夢を見つけました。それは、日本語教員になることです。しかし、夢の実現の前には、様々な不安がありました。そのような不安を抱えて悩んでいる時に、日本語教育の先生から今回のインターンシップがある事を教えていただきました。幸いにも、国際交流基金の支援を受けることができ、今年（2010年）の8月8日から9月11日までタイへ行き、憧れの日本語教育の現場を体験してきました。



— スーパーバトゥム大学での授業 —
「とても緊張しました」

私がお世話になったのは、バンコクにあるスーパーバトゥム大学です。その大学では、30分間の授業もさせていただきました。現地にいらっしゃる日本人の先生が文法説明をされた後、習った日本語表現を実際どのように使うかを教えるのが私の役目でした。いざ、準備のため考えてみると、わからないことが沢山あることに気づきました。そして、その日本語が実際にどのような場面に使われているか、例文を考えるだけで何時間も費やしました。その時、言語を教えることの大変さを実感したように思います。



— 日本語を勉強している高校生との交流 —

タイでは、他の大学、高校で日本語を勉強している学生・生徒と交流する機会にも恵まれました。歌を歌ったり、ダンスをしたり、とても楽しい時間でした。しかし、残念ながら、授業においても、交流会においても、自分の力不足を実感することが多かったのです。上手い出来ない事ばかりのような気さえしま

した。それでも、学生・生徒達は、いつも真剣に話を聞いてくれていて、その姿にはとても勇気づけられました。彼らの期待に応えられるような教師になりたいと強く思いました。



ー タイで行われた日本語のイベントにて ー
「スィーパトゥム大学の学生と一緒に参加しました」

このひと夏の貴重な経験を振り返ってみて、一番印象に残っているのは、「この日本語教師という仕事には人間性が求められる」と言われた事です。知識が必要なことはもちろんですが、人が好きである事、そして、人に好かれる事、そして、人に信頼される事が必要なのです。忘れられない言葉となりました。

国外での生活に不安を抱き、躊躇する人もいると思います。私もその一人でした。しかし、実際に体験してみると、その国のイメージは変わります。一步踏み出すことで道が開けるのだと心から感じました。今では、英語英米文学科で学んできたことを生かして、外国語を学ぶことの大変さや苦労も理解できるような日本語教師になれるのだという気がしています。必要であれば国際語である英語を使って、日本語を教えることができるという自信もつきました。それに加えて、私は、「自分だからこそなれる日本語教師」になりたいと思っています。

このような素晴らしい体験をすることができたこと、そして、このインターシップに関係されている全ての人々への感謝の気持ちを忘れずに、夢を大切に、これからも頑張ります。



「タイのシンボル、象に乗ることができました」

[トップページへ](#)

Inserted from <http://www.yasuda-u.ac.jp/eibun/voice2/voice1110/voice2-left.html>